

平林初之輔文藝評論全集

下

卷

平林初之輔文藝評論全集 下巻

△日本文学全集・選集叢刊第4次V

昭和五十年五月一日発行

著者 平 林 初 之 輔

発行者 谷 地 秀 祐

印刷所 (財)印刷局朝陽会

製本所 (財)印刷局朝陽会

発行所 文 泉 堂 書 店

本店 東京都千代田区神田神保町二一四一六

電話東京(03)二六五局八九一番(代表)

出版部 東京都千代田区神田神保町一四九一

電話東京(03)二九四局〇二五九番

(落丁・乱丁はお取替いたします)

平林初之輔文藝評論全集 下巻 目次

第一篇 文芸評論 一

ロマンチック時代 三

新作家七人論 六

一、批評家の言論に就いて 二、現代文学の背景 三、旧時代の夕映としての宇野浩二 四、南部氏の「知」と中戸川氏の「巧」 五、細田民樹氏に対する期待 六、室生犀星氏のアピリテイ 七、舟木重信氏と細田源吉氏

吉氏

現実と真実 一九

文学革命の意義 二三

近松秋江の作に現れた恋愛 二八

反抗的精神と文芸 三三

現代文学の正体 四三

一、文学は守旧的か 二、文学上の白紙主義 三、文学の普遍性 四、外国文学の影響 五、愛の進化

一兵卒の立場から 四八

目次

二

一、プロバガンダとしての文学 二、社会主義同盟に就いて 三、ジャーナリズム、月評のこと 四、書かぬ作家

吉田絃二郎論——文壇新人論……………五

象牙の塔から貉の穴へ……………六

創世紀と進化論——将来の文学に就て……………七

時評……………七

性慾文学に就いて 批評原理としての社会的正義 破壊の心理と論理

時事偶感……………三

一、不名誉なる節操 二、再び芸術の普遍性に就いて

菊池寛氏——知識階級の代表的作品……………六

武者小路実篤論……………六

文学と社会主義と——永遠性は後者にもある……………九

人格主義を駁す其他 批評は勇敢なるべし……………九

武者小路実篤氏——要素と非常な欠陥……………一〇七

スピリットの欠乏した創作……………一〇

自然に帰れといふこと……………一六

種蒔く人に望む……………一〇

支配階級の分裂と知識階級	一三三
細田民樹君に答ふ	一三二
行動の理想主義	一三八
片上伸と吉江孤雁	一四三
学問思想及び芸術と流行	一四六
中西氏に答ふ	一五三
階級の発見	一五六
文芸作品と人気	一五九
私の知り得る範圍	一六四
無産者文学のために	一六九
玩具の洋刀の『挑戦』―富士幸次郎氏に答へる	一七四
尾崎氏に答へる	一八〇
釈明、弁駁及び啓蒙	一八二
新興文壇の収獲―前田河広一郎氏「赤い馬車」を読む	一九四
有島武郎氏の死について	一九七
土の芸術其他に就て	二〇三

芸術の職業化について……………	二〇七
原始芸術に関する最近の学説……………	二一三
アナトオル・フランス私見……………	二一八
日本の近代的探偵小説―特に江戸川乱歩氏に就て……………	二三〇
芸術家と政治……………	二三七
無題録……………	二四〇
大衆文学は天才文学である……………	二四四
セルフ・レフレクション……………	二四六
『心理試験』を読む……………	二三八
プロレタリアの文学運動……………	二四一
一、プロレタリア文学の理論的起源 二、史的唯物論による文学史の改造 三、階級闘争に於ける文学の位置 四、日本に於けるプロレタリア文学運動 五、結論、従来の運動からの教訓と将来への誠め……………	二五一
文学への刺戟……………	二五二
新しき類型の創造―芸術観断片……………	二五四
探偵小説に現るゝ名探偵―ホオムズの探偵法……………	二五六
一、書齋の中ホオムズ 二、ホオムズの性格 三、ホオムズの探偵法 四、ホオムズのマンネリズム……………	二六〇
ロマンチズムの定義に就いて……………	二六〇

プロレタリア文芸家聯盟に就て	二六六
谷崎潤一郎論(一)	二六九
谷崎潤一郎論(二) 谷崎氏はリアリストであるか―橋爪健氏の批評について―	二七三
大衆文芸のレーゾンデートル	二七五
複雑と單純○批評の二種類	二八一
農民文学断想	二八三
プロレタリア文学否定論の一つに就て	二八五
文学と社会科学と	二八八
片上氏の「文学評論」	二九一
愛読作家についての断片	二九四
黒岩涙香のこと	二九七
今後の文学理論	三〇一
「転換期の文学」のもつ意義	三〇五
所謂創作家の批評に就いて	三〇六
無産文芸三派の批判	三〇九
随筆漫語―現代論壇の人々を評す―	三一二
五十年後の文学	三二五

スタイルの問題其他	三二
コンラッド・ファイトの変化	三三
映画と子供	三四
党人と自由人と	三四
文学の職業化と最低原稿料問題	三八
目的意識の昇華——青野君の批判の批判——	三四
作家としての小酒井博士	三八
プロレタリア文化概論	三二
一、社会現象の平衡及びその必然性	三三
プロレタリア文学の理論	三六
一、ロシア革命前のプロレタリア文学	三七
二、プロレット・クリトの文学論	三八
三、鍛冶屋及び同伴者の理論	三九
四、『十月』派の理論	四〇
五、プロレタリア文学に対する三つの意見	四一
六、結語	四二
江戸川乱歩	三五
現代文学に於けるエロチシズム	三六
現代文学の十特色	三六
思想なき文学	三六
文芸は進化するか、その他	三七
一、文芸は進化するか？	三八
二、文学作品と広告	三九
三、課題小説	四〇
四、小説の危機	四一
五、ヴァン・ダインの探	四二
偵小説論	四三
六、新作家輩出時代	四四

最近文壇の諸流派と其の人々	三六五
はしがき 一、動かない作家の群 二、少しづつ動く作家 三、急テムボで動く作家 四、プロレタリア作家 五、反プロレタリア派	三六七
小説の表現力について	三九一
芸術家の離婚問題批判	四〇一
文学者の社会的地位について	四一五
探偵小説作家に望む―あくまで嚴肅な―	四二七

第二篇 文芸時評

大正八年	四三八
七月の文壇 八月の文壇 九月の文壇 十月の文壇 十一月の文壇 師走の文壇	四四八
大正九年	四四八

三月の文壇の事ハ芸術のゾルレン／技巧派といふこと／室生犀星の作品／伝統と美と社会的正義と／水守亀之助の二作／時勢と文学／九月の創作／空中の芸当」と「霧」／「胎児」と「幼なき者」／「弱き男の話」／「熊」及び「活版屋の話」／「親子」／「婚約」／「犠牲」／「罪」／「寂しき離合」／「影」／「囚人の子」／「雪の底にて」／「真鶴」と「靴」／「厭離」と「毒婦のやうな女」／月評ハ文壇革新運動の第一歩は茲に在リ／題材の無撰択は作の保障にならぬ／奇術師型の小説と青年型の小説と／洵に危険千万な平面描写の拘束／弱者は藁をも掴む「愛欲」と旧文学／皮肉と憐憫とを基調とせる人生観／『新潮』の四篇と二つの労働小

説▽ 大正九年の文壇を評す△転換か爆発か／大家の勢力／中堅作家の成績／新進作家の陣容／労働文学と特殊作家▽ 十一月の文壇△評論の中から／小説の中から▽ 今年から来年へ△皆んな危い芸当ばかり／将来は民衆文学の世界／社会主義か文化主義か▽

大正十年

四九

通俗小説の文芸的位置 文壇月評△レンズは正確らしいが――曇りある武者小路氏／望遠鏡下の小説――「潮風」のブルジョワ趣味／プロかアンチか――武者氏の中立的態度／短篇四種を読む――昔話に材料を採るなら／小主観は殺す可し――「妙な音」は近頃での佳作／「野良犬」と「橋畔」――如是閑氏の「お猿」は上手／芸術品としての完璧――哲学は問題を解決しない／「寂しき人々」は力作――新生面を示した宇野氏／「子を奪ふ」他一篇――豊島氏と藤森氏との対比／史劇と現代劇と――新進二氏の短篇小説と▽ 大正十年の文壇

大正十一年

五三

新年号の評論から△民族主義の空想／学者と第四階級▽ 文芸時評作と評論二三 文芸時評 ジャーナリズムと文学△マルクス主義と文学／中戸川氏へ▽ 文壇の一年間△童謡、民謡、童話／宗教文学／長篇小説／大善薩峠の第一期完結／表現主義とダダ／翻訳／バルビュス対ロラン／有島氏の宣言／有島氏の土地抛棄／其の後の有島氏／『泉』の創刊／菊池对里見の論争／プロレタリア文学／プロレタリア作家／種時く人と熱風／新興文学の意義／文学の墮落乎／新進批評家／プロレタリアの大胆／探偵小説流行／募集小説と新雑誌▽ 文壇左傾派の作品

大正十五年

五七

五月号の評論を讀みて

昭和三年

六一

文芸時評△三つのプロレタリア文学雑誌／青野季吉君の所論について／田口憲一君の所論について／蔵原惟

人君の所論について／二つの小説について／ミセレーニアス▽ 文芸時評ハ非大衆的作家／文体について／ゾラの文芸家協会論▽ 文芸時評ハ白鳥の泡鳴論と鉄兵の作品／「大隈重信」と「信州義民録」／ルヴェルの「夜鳥」と義信の「死の書」／治安維持法改正問題論議その他▽ 文芸時評ハ戦旗の作品／文戦その他／ルナチャルススキイの批評論／映画の本質▽ 文芸時評ハテーマの問題／「Y製鉄所の映画」／「東京六月祭」と「墜落」／「芭蕉と歯朶」と「ある演説会」等／「噂の発生」▽ 文芸時評ハ評論および批評／戯曲／小説一／小説二／小説三▽ プロレタリア文学運動 一九二八年を顧みて 文芸時評ハ無想庵と春夫／洋文、石浜、鹿地／小林と十一谷／釈明と宣明▽

昭和四年

六二六

文芸時評ハ孝作と三郎／岡田と大仏／麟太郎氏その他▽ 文芸時評ハ二つの文学論／新人の諸作一括／左翼派の作品▽ 最近の文学思潮ハ大衆文学の問題／文学の形式の問題／映画と文学との交渉／小説の分化／等閑視されてゐる国文学▽ 文芸時評ハ築地の分裂問題▽ 文芸時評ハ寄贈書の中から／大宅氏の理論／アメリカニズムの力▽ 探偵小説の世界的流行 文芸時評ハ芸術価値の問題▽ 文芸時評ハ書物は多過ぎるか？／二人の作風について▽ 文芸時評ハ二義作労作の価値／たい魔派作品の価値▽ 文芸時評ハ勝本氏を駁す（1）／勝本氏を駁す（2）▽ 文芸時評ハ新作家二十五人／短篇二十五篇▽ プロレタリア文壇

昭和五年

六七四

文芸時評ハ雑誌の中心読物の変化／芸術の敗北か？▽ プロ派の作品と評論 文学のレビュウ化

第三篇 文化評論その他

六八七

信濃めぐり

六八九

三つの社会主義雑誌を読みて	六九五
自由恋愛の条件	六九七
プロレットカルトの話	七〇五
知識階級の分解	七一〇
山川均夫妻の印象	七一五
戦線をつくる必要	七二八
農民の社会的立場	七三三
学問と権力との衝突の解式	七三五
新聞の社会的機能	七三九
自然力と人間力との交渉	七四四
婦人の世紀	七四一
愛国心の濫用を戒む	七五〇
近世婦人問題の文化史的考察	七五三
西村真次氏の『文化人類学』を読む	七六九
経験	七七三
文化の女性化	七七六

補遺

目次

木崎村農民学校問題所感……………七六

社会科学……………七九

一、社会科学とは何か 二、社会科学は可能であるか 三、意志の自由と社会現象と必然性と 四、社会は
固定した存在ではない 五、社会の進化及び変革の理論 六、社会科学の理論と実践と

社会時評……………八〇

一、太陽の黒点 二、理論拘泥主義 三、福本イズム 四、沢正の星亨

現代を象徴するもの……………八二

思想の混沌……………八六

一、スチュデント・マルクシストの書齋にて 二、リベラリストの応接間にて 三、倶楽部のスモーキン
グ・ルームにて 四、カフェにて

社会時評……………八九

一九三〇年の展望 土木事業の芸術化

トーカーを見て……………八三

モダニズムの社会的根拠……………八六

テレビジョン大学……………八〇

人及び芸術家としての小川未明氏……………八五七

作家と人気……………八五九

一、作品と人気 二、絵本と文学 三、方言

片上先生の人と事業……………八六三

形式主義理論の自滅その他……………八六五

翻訳権の問題について

文芸連盟所感……………八六八

解説……………吉田 精一……………八七三

平林初之輔年譜……………八八三

参考文献……………九〇七

第一篇

文芸評論

